

ルイス・クラレット先生による マスタークラス開催

～サントリー美術館6階ホールにて～



2007年10月27日、ルイス・クラレット先生をお招きして、日本チェロ協会主催公開マスタークラスを開催いたしました。2007年春にオープンしました東京ミッドタウン内のサントリー美術館6Fホールでは初めてのマスタークラス開催となりました。

クラレット先生は、受講者の方の身体の特徴を捉え、受講者皆様それぞれに対する身体の使い方、力の抜き方に関することなどを、先生ご自身の身体や身振り・手振りを使ってのご指導となりました。時折冗談をまじえながらのご指導に、会場は緊張感を持ちつつも和やかな雰囲気包まれての進行となりました。

マスタークラス終了時には、ご自分の指導は沢山のチェリストがいろいろな方法で演奏し、教えていらっしゃる中の一つでしかないこと、その教えの中から自分に合った良い演奏方法を選び、吸収していくとよい、というお言葉を下さいました。

先生の熱心なご指導に受講者の方はもちろん聴講の皆様も、休憩なしにも関わらず、真剣に聞き入っていました。

当日は台風のために生憎のお天気となってしまいましたが、多くの方にお越し頂きまして、無事にマスタークラスを開催することが出来ました。クラレット先生をはじめ、コーディネーター下さったスピカ・深澤様、通訳の鳥羽様、ご参加下さった受講者の皆様、聴講の皆様、ボランティア・スタッフとしてお手伝い頂きました会員の渡辺様に心より御礼申し上げます。ありがとうございます

した。

以下、受講者のレポート、及び当日のプログラムをご紹介します。

小林 幸太郎さん(S-060)

この度はクラレット先生のマスタークラスを受講させていただきとても嬉しかったです。

六本木に新しく誕生したミッドタウン内のサントリー美術館の素敵なサロンで演奏させていただきました。

僕はエルガーのコンツェルトを選曲しました。そして当日は台風接近の雨天でしたが、ガラス張りの美しいサロンには、強い雨が模様を描いてその時々打ち付ける様子にエルガーがとても似合っていると感じました。マスタークラスが始まり僕の演奏は緊張していて不本意でしたが、そんな時こそ自分の問題点が指摘いただけたと改めて気づくこともできてとても感謝しています。クラレット先生の透き通る音色は僕の緊張をすぐにほぐして下さり素晴らしいレッスンが始まりました。

レッスン内容としては、左手の力の方向性…自分はビブラートをかける時に下向きに押ししていましたが、それを横に力を逃がして指一本一本を独立させると楽に沢山の種類のビブラートをかける事ができる。音楽の表現と体の使い方…大きい音を出したい時にどうしても体を丸めて頭を下げてしまう癖がありました。しかしそれを、



体を広げて右腕を伸ばし、腕の重みによって発音すると「芯のある大きい音」を出すことができました。この左右の力を使い分けることによって「どんな曲」、「どんな音」でも自由に出せるようになるという事を教わりました。

そして、いつも僕の先生にご注意いただく同じご注意が、今回大勢の皆さんの前でクラレット先生にも頂いた事が自分の今後レッスンを受ける課題となりました。普段、先生のお優しいお言葉に甘えていた自分も分かりましたし、レッスンを受けられる事の喜びも改めて実感できました。そして自分と一緒に受講された方々のレッスンも聴講させて頂きまして大変勉強になりました。

最後にこのような貴重な体験をさせて頂き、チェロ協会や会場関係者の方々、通訳やレッスンにおいてサポート下さった方々に感謝しています。ありがとうございました。

■山田 幹子さん(S-034)

今回クラレット先生にレッスンをして頂き、一番心に残ったことはリラックスして弾く、ということです。私が今悩んでいるヴィブラートがうまくかけられない、高い音になると特に音が詰まって苦しく聞こえる、ということにも繋がっていると感じました。

ヴィブラートはまず左の指の押さえ方を変えることから始まりました。上からプッシュするのではなく、プルすること。腕は、歩くときにまず身体が動くように、腕から動くこと。

レッスン中ではさすがに全てはできなかったのですが、少しでもうまくいくと全然音色が違ったので、自分で練習して習得しようと思いました。

私はリゲティの無伴奏ソナタを弾いたのですが、ダイ



ルイス・クラレット チェロ公開マスタークラス

2007年10月27(土) 14:00
サントリイ美術館 6Fホール

講師：ルイス・クラレット
Prof. Lluís Claret

通訳：鳥羽 亜矢子
Ayako Toba, interpreter

- <1> 14:05～ 小林 幸太郎(桐朋女子高等学校音楽科 在学)
Kotaro Kobayashi
エルガー：チェロ協奏曲 第4楽章
Edward William Elgar: Cello Concerto in E minor
ピアノ伴奏：和田 晶子
- <2> 14:40～ 山田 幹子(東京芸術大学音楽学部 在学)
Mikiko Yamada
リゲティ：無伴奏チェロソナタ
György Sándor Ligeti: Cello sonata for solo cello
- <3> 15:15～ 伊藤 七生(桐朋学園大学音楽学部 在学)
Nanami Ito
ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 作品104 第3楽章
Antonín Leopold Dvořák: Cello Concerto in B minor Op.104
ピアノ伴奏：関根 佳美



◆ルイス・クラレット Lluís Claret 氏 プロフィール ◆
9歳で音楽科を受け始め、17歳の音楽科を履修で卒業し、ついで、エンリク・カザルス(バレンシアのセルロの師、チェロ史ではない)から音楽教育を受けた。また、フランス、イタリヤ、アメリカで、モーリス・ジャンドロン等から教養を受けた。
ボコ・ニコ(1975年)、カザルス(1976年)、ロストロポーヴィチ(1977年)の名門コンクールに優勝した後、ワシントン・ナショナル管、モスクワフィル、フランス国立管、イギリス海軍、ワルシャワ・フィルハーモニー、サンフランシスコ交響楽団のメジャー・オーケストラに招聘され、ビヤール・ブーレス、カール・ミュンヒン、ザース、ドミチル・キダエンコ、フィリップ・トルスマウスキ、ジョージ・マルコム、ヴァンワグ・ノイマン、ムスタフ・スタブ・ロストロポーヴィチらの11名の指揮で演奏を重ねる。
この大演奏に加え、クラレットは国内にも力を注いでいる。(1981〜1983)の直ぐにバーベコ、著名な音楽家たちと共に共演している。
また、三原コンクール(ロストロポーヴィチ賞)、レナード・ロー・ワシントン、バコフ・ヘルシキ、トワバーニ・シチリヤの審査員として定期的に参加するほか、音楽学校や音楽家養成(ブロードウェイ、バコフ・シチリヤ、ロー・ワシントン、ボローニャ、ウィック、バコフ・アカデミー)など、様々な音楽団体の指導員も務めている。
レパートリーはバッハから現代作曲家まで多岐にわたる。特に現代作曲家(フェリクス・ムトス・ワグネル、ブー・レーヌ、ラベキウス)等から多くの作品を録音され、見聞を行っている。
また、クラレットはバルモニア・ムンチン・ワグネル・ワグネル・ワグネルに多くのレコーディングを残している。

主催：日本チェロ協会 / 協力：サントリイホール

アログのイメージを青年と老人の会話だと思って弾いていたのですが、先生からこのダイアログはリゲティとその時の彼女との会話だと教えて頂いたので、新しいイメージを持ってまたこの曲と会話していきたいと思います。

今回のレッスンはヴィブラート、チェロの構え方など技術的なことをほとんど注意して頂いたので、これをふまえて改善していきたいです。

コンサートで演奏をお聴きして以来、ずっとクラレット先生の深くて暖かい音に憧れていまして、実際レッスンをして頂いたクラレット先生の人柄はやっぱり温かくて感動しました。

レッスンを受講できて嬉しかったです。本当にどうもありがとうございました。

■伊藤 七生さん(S-073)

この度はルイス・クラレット先生のレッスンを受講させて頂きありがとうございました。本当に良い勉強ができました。

私はドヴォルザークの協奏曲の第三楽章を弾きました。この曲は、とても大きな協奏曲です。ですから、レッスンでは主にどうやって自然に大きな音をだすか、体の重心と体の軸を意識した右腕の動きについて教えていただきました。

音をだすときには腕やからだの重さを自然に右手に伝えることが大切です。以前の私は指先に、ひじや肩、背



中の重さを伝えることを念頭に置き過ぎ、体の重心が肩甲骨辺りまで上がり、肩が上がって内側に入っていました。体の重さも一部そこで止まってしまい、結果、音量に結びついていませんでした。

そこでまず重心を下げることからレッスンは始まり、深く息ができる位置に重心を下げるように楽器の構え方を改めました。先生から肩を内側に入れなくても腕の長さは足りていると指摘され、体も以前より前傾姿勢ではなくなりました。重心を下げると肩や背中が開いて重さがスムーズに乗るようになり、以前より音がでるようになりました。楽器を構える角度を変えた関係で左腕の高さや動くラインも変わったので、音程やヴィブラートの調整に少し時間がかかりましたが、今ではとても快適です。

もう一つ大きく勉強になった右腕の動きについてです

が、前提としてまず腕の各部分が動かせること、肩が下がって背中が楽になっていることと、背骨の軸がぶれないことがあった上で、背中の中から一つの動きで腕を動かすことを先生に私の腕を引いていただいて習いました。右手の動きが一つになると、ひじや手首の無駄な動きが減って重さが素直に伝わるようになり、フレーズを長く、音楽をつなげて歌いやすくなったと思います。

レッスンでは、長い間自分の中で問題点がはっきりせず、うまく取り組めないままでした、根本的なことをピックアップして教えて頂いたので、レッスン直後は一時的にとってもびっくりしてショックを感じたのですが、本当に今必要なことを勉強できて、良い機会になりました。今まで習ってきた色々なことが今回のレッスンを受けて、一本の線につながったように思います。

クラレット先生はとても真摯で暖かい方で、優しいような笑顔が印象的でした。時折ジョークもまじえつつ、大変熱心に、一つ勉強するごとに違いがわかるかどうか丁寧に確認して下さり、楽しくレッスンが受けられました。実際に弾いて下さったり、身振り手振り、見たり聞いたりして学ぶこともたくさんあり、とても充実のレッスンでした。自分でももっと英語が話せるようになりたいな、と強く思いました。

最後になりますが今回このような機会を与えて下さったクラレット先生、通訳の方、チェロ協会及びサントリー関係者の方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

チェロサロン 開催

11月3日（土） 荻田雅治先生

2007年11月3日（土）文化の日に、サントリーホール・リハーサル室にて荻田雅治先生によるチェロサロンを開催いたしました。

今回は「チェロ奏法における身体の使い方」というテーマのもと、クリニックでは、受講者個人個人の身体に合わせた座り方やチェロの構え方からはじまり、演奏時における身体の使い方（特に右手の力の抜き方、弓の引き方など）を丁寧に、そして先生ご自身の身体をお使いになったエネルギーなご指導を頂きました。

後半は出席者11中10人の方が参加されたアンサンブルで、5パートに分かれてフォーレの「夢の後に」を演奏しました。





メロディパート以外の2～5までのパートはほとんどが刻みとなっていました。その下のパートの重要性、下のパートがメロディパートを操作しているということ、そのコントロールしているという感覚がだんだんと楽しくなっていく、いずれやみつきになる、というとても興味深いお話を伺いました。

ご参加いただいた皆様には、その曲の中でのそれぞれのパート同士の係わり合い方をお感じになっていただけたのでは、と思います。

ご参加くださった皆様、ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

- ◇日 時 11月3日(土) 文化の日
12:30～14:30 (15:10まで延長)
- ◇会 場 サントリーホール・リハーサル室
- ◇主 宰 苅田 雅治先生(日本チェロ協会評議委員)
- ◇参加人数 12名:講師1名、会員10名、一般1名
(クリニック参加者4名、アンサンブル参加者10名、聴講のみ1名)

[スケジュール]

- 12:50 小泉 喜正 (R-229)
J.S.バッハ:メヌエット第2番
- 13:10 竹内 貴博 (非会員)
サン＝サーンス:チェロ協奏曲第1番
〈休憩〉
- 12:35 竹内 幸美 (R-185)
ボッケリーニ:ソナタ第7番
- 13:25 三木隆二郎 (R-001)
ブラームス:チェロソナタ第2番 第1楽章
〈休憩&転換10分〉
- 13:50 アンサンブル フォーレ:夢の後に

参加者の声

小松 健二郎さん (R-247)

この春に会員登録し、初めてのサロンでいきなりアンサンブルに出演を依頼され戸惑いましたが、たまたま曲がつい先日上がったフォーレの「夢のあとに」だったので思い切って参加させていただきました。当日は初めての参加者は少なく、慣れていらっしゃる方が多く大変緊張を強いられました。ただ 個人指導をされている先生のご指導方法やその内容を目の前で拝見し、初めて

自分の先生以外の先生からの教えに感動していました。まばたきも出来ないほど食い入って拝聴拝見させていただいた次第です。勉強になりました。

アンサンブルは、楽譜が違うのと、自分が教わったときの速さが違うので、リズム感のない私にはなかなか思った通りには弾けませんでした。つまり間違いだらけの演奏でした。応用の利かなさに反省しきりです。終わってから先生との懇談では、ベテランも初心者も驕ることもなく交流されることに少し喜びを感じた次第です。さらに練習を重ねることへのパワーをいただきました。ありがとうございました。

次回“チェロサロン”開催のお知らせ

2008年3月16日、山崎伸子先生を講師にお迎えし開催を予定しております。これまでのチェロサロンに参加されている方も初めての方も、奮ってご参加ください。詳細・申込み方法については、ホームページおよび同封のチラシをご覧ください。皆様のお申し込みを心よりお待ちしております。

- ◇日 時: 2008年3月16日(日) 11:00～13:00予定
- ◇場 所: サントリーホール・リハーサル室
- ◇主 宰: 山崎 伸子先生(日本チェロ協会評議委員)

事務局より

●HPレイアウト変更のお知らせ

1月よりHPのレイアウトを少々変更いたしました。今まであった「イベント情報」はなくなり、イベントがあるときにだけお知らせを致します。皆様にわかりやすい情報提供を目指していきますので、どうぞよろしくご願ひ致します。

また、コンサート情報や著作権情報など、随時募集中です。お気軽にお問合せください。

編集後記

10月のマスタークラス、11月のチェロサロンにご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。皆様にお目にかかれて大変嬉しく思います。

今年度は残りわずかではございますが、あと1回のチェロサロンの開催予定がございます。お誘いあわせの上、是非ご参加くださいますよう、皆様のお申し込みをお待ちしております。

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第28号

2008年1月31日発行

発行: 日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1010 FAX 03-3505-1025

発行人: 堤 剛

編集: 日本チェロ協会事務局

編集協力: リュウカンパニー